

さる 10 月 21 日（日）名古屋市内のイオンモール大高店にて、コンサルタント委員会市民交流研究小委員会により「土木ふれあいフェスタ in 名古屋～くらしと安全を支える土木～」が開催された。秋田市、広島市、札幌市、愛媛県松前町に続き、5 回目の開催である。

今回は、土木学会 100 周年記念事業の一環として位置づけ、国土交通省中部地方整備局、愛知県、名古屋市の後援とトンネル工学委員会、建設コンサルタンツ協会中部支部、土木学会中部支部および西部支部の協力を得て、パネル展示（土木コレクション、中部地区の選奨土木遺産、南海トラフの巨大地震被害想定、土木のこぼし）、体験広場（液状化実験、トンネル実験、橋模型実験）、土木関連図書の紹介、展示を見ながら答えるクイズラリーなどを行った。

会場は、名古屋市の南東部 JR 南大高駅に直結した複合型商業施設内の広場であり、展示数や実験スペースが限定される中での開催であったが、参加者はパネル展示など時間をかけて熱心に見ている方が多かった。

また、本イベントで例年実施している体験広場の液状化現象実験（砂と水の入った箱を振動させることで、液状化現象の再現）や橋の実験（アーチやトラスの強度を確認する載荷実験）は相変わらず人気が高かった。

特に、今回初出展となったトンネル工学委員会によるトンネル実験（ペットボトル内に砂と円形の紙筒でトンネルを再現）は、多くの人を惹き付けていた。

来場者数は、400 名弱、大多数は通りがかりの方で 30 代のご両親と未就学児・小学生という組み合わせが多かったようである。回収されたアンケート 368 通には、多くの意見・感想が記述されていた。

「実験が楽しかった」、「土木の仕事が幅広いことがわかり、勉強になった」という好意的な感想が多く、中でも「防災面でのよりいっそうの活躍を期待」という 30 代男性のうれしい意見があり、このようなイベントを通じて土木外の方々との交流が図れたことを実感できた。また、NHKTV による取材があり、夜のローカルニュースで放映して頂いた。

なお、来場者数は昨年の約 900 名には及ばなかったが、本委員会の目的である、一般市民の土木に対する理解を深めるという観点より、イベントの質を高めることができた適切な参加人数であったように思う。学会活動における市民交流とは、学会の研究成果や土木関連の情報などを市民の立場・視線で、わかりやすく発信することがその第一歩であると考えている。今後も継続的に実施し、土木学会が 100 周年を迎える 2014 年度には、記念事業として全国 8 支部での同時開催を目指している。各支部の協力をお願いしたい。



図 1 イベント案内ちらし



写真 1 イベント会場全景



写真 2 展示・クイズラリーの様子